

乳相談など、少しずつではありますが制度化し、充実してきたというふうに私どもでは捉えております。

ただ、まだまだ足りない部分もあるというふうに感じているところでございます。国のほうでも現在、今年度の2次補正予算の中で、妊婦や子供に向けまして、伴走型の支援ということで相談体制を充実させていこうといったことも打ち出しております。様々な方々の力を借りながら、必要な支援が行き届くよう制度の構築が必要ではないかというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

これで終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

ここで、暫時休憩いたします。

再開を2時半といたします。

〈午後2時18分 休憩〉

〈午後2時30分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。〔11番 保坂 悟君登壇〕

○11番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、駅北子育て支援施設の目的と市民周知について。

(1) 市民会議とまちづくり会議で決めたにぎわいの拠点施設について。

① 「複数分散型のまちづくり」について回遊性の取組はあるか。拠点整備ばかりで、民間力による周辺への波及を論じないのはなぜか。

② 「子育て支援を中心とした機能」について「乳幼児向けの屋内の遊び場、多様な子育て相談の場、高齢者の活躍の場」を整備して、最終的に多世代交流を目指すことを市民周知できているか。

(2) 子育て相談と屋内遊戯場の必要性について。

人の運動能力は幼児期の3歳から6歳までで8割が決まると文部科学省は説明している。

悪天候のときでも子供たちが伸び伸びと体を動かすことで、頭と体の成長を促すことになることを市民周知しているか。

(3) 子育て支援センターと屋内遊戯場の費用対効果について。

① 妊産婦の視点から、子供が減少すると不要な施設と言えるのか。

② 福井県は屋内遊戯施設のない1市町に、上限1億円の補助を出して整備を進めている。その背景をどのように考えるか。

③ 議会では計画が過去のニーズによるものとして白紙撤回の意見があるが、今の子育て世代のニーズは本当はないのか。

2、子育て支援について。

(1) 今年10月29日に糸魚川市は、日本青年会議所が提唱しているベビーファースト運動に参画しているが、どのような活動を展開するか。

(2) 今年10月28日に決定した政府の総合経済対策に、子育て支援に関して「伴走型相談支援の充実を図る」ことが盛り込まれている。これに連動して、糸魚川市は子育て支援をどのように拡充する考えか。

(3) 国は総合経済対策の中で、妊娠と出産の届出時にそれぞれ5万円相当の商品券などの給付を考えているが、市では「妊娠お祝い事業1人5万円分」、「市内産婦人科確保対策事業1人5万円」、「子ども誕生お祝い事業1人2万4,000円分」との調整はどうするのか。

(4) 出産育児一時金の拡充と直接払い制度の扱いについて。

自由民主党の茂木敏充幹事長は、42万円から47万円に増額すると発言している。糸魚川市は産科撤退が見込まれていることから、1人50万円で予算化する考えはあるか。

(5) 子ども医療費の無料化について。

少子化が進んでいることを考慮して、子ども医療費の無料化を来年度より実施する考えはあるか。

3、糸魚川市の魅力づくりについて。

(1) 海の魅力化について。

① 市内の海岸線は約51kmあり、サーフィン、スキューバダイビング、釣り、海水浴、石拾い、展望台等の海岸の特性に合わせて、公設トイレと駐車場の整備を行う考えはあるか。

② 沿岸にある漁港や離岸堤等の既存施設や特色を生かした、新しい観光産業や水産業を展開する企画を考えているか。

③ テレビドラマ「ファーストペンギン」が放映されている。この機会に上越漁業協同組合と市内「道の駅」と連携して、海産物や魚介類の販売方法の改革や、海や川の観光レジャー産業の育成とそれらのための人材育成を海洋高校・能水商店等と連携し、事業を行う考えはあるか。

(2) 体験学習の魅力化について。

① 海洋高校では県内外の生徒が寮生活をしている。この寮生活自体の魅力化を行う考えはあるか。

② 糸魚川市の小学校の親子ワークショップはとても素晴らしい取組であると思うが、さら

に内容や規模の拡充を考えているか。

③ 保育園留学制度の導入について考えているか。

#### 4、諸課題の取組方針について。

(1) 大糸線問題（鉄道存続）について。

① 大糸線の観光資源としての価値についての検証は行うか。

② 鉄道を残すための手法として、外国資本を使う考えはあるか。

③ 北陸・中部の広域で、日本のアニメ文化を生かした子供も大人も外国人も乗りたくなる企画観光列車の運用を考えているか。

(2) 権現荘の運営について。

① 新年度は運営について、どのようなパターンを考えているか。

② 目的外使用や払い下げを行う場合、補助金等の条件はあるのか。

③ 日帰り温泉を残す理由と採算性の見通しはどうか。

(3) アフターコロナのスポーツやレジャーの振興について。

① 陸上競技場の管理棟屋上に観覧用ベンチの設置はできるか。

② 藤崎海岸にあるトイレは整備ができるか。

③ 青海シーサイドパークのドームなぎさの改修と入り口の階段整備完了はいつか。

(4) 各種施設の「ウエルカム精神」について。

① 公共施設の管理等の職員やスタッフの研修に、この内容はあるのか。

② 施設の節電は理解するが、暗過ぎると拒絶感を与えていないか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、自治会や商店街、多くのまちづくり団体等が駅北で主体的な活動を行っている中で、新規事業所の開設もあり、新たな人の動きが生まれていると感じております。計画中的子育て支援施設は、子育て世代だけではなく、多世代の交流を図れるよう基本計画に盛り込んでまいります。

2点目につきましては、マタニティスクールや幼稚園・保育園の保護者向け健康教室などを通じて、市民周知に取り組んでおります。

3点目の1つ目につきましては、子供の減少に伴い、子育て世代同士の交流機会の減少も見込まれることから、子育てに関する不安解消や情報交換を行うための子育て支援施設の必要性は高いと考えております。

2つ目につきましても、悪天候時でも家族で遊べる施設に関するニーズの高まりから、推進されている事業であり、本市における市民ニーズと同様と捉えております。

3つ目につきましては、今年度施行している移動子育て広場には、多くの親子が来場しており、屋内遊戯施設の設置を強く望む声を伺っております。

2番目の1点目につきましては、総合計画に基づき、引き続き子育てに優しいまちを目指し、施策を進めてまいります。

2点目につきましては、現在行っている妊娠届出時の面談や乳児全戸訪問などと伴走型相談支援の整合性を図りながら、身近で気軽に相談できる体制となるよう努めてまいります。

3点目につきましては、現在、実施している事業に加えた新たな事業になるものと考えております。

4点目につきましては、国民健康保険の出産育児一時金としては、政令で定める金額と同額を考慮しております。

5点目につきましては、前向きに検討を行っております。

3番目の1点目の1つ目につきましては、既存の公設トイレ及び駐車場の周知を図るとともに、利用者ニーズの把握に努めてまいります。

2つ目につきましては、今年度策定中のマリンドリーム能生周辺整備計画において、漁業協同組合などの関係者と意見交換を行っております。

3つ目につきましては、海洋高校及び能水商店と地域課題を共有しながら、必要な産業教育について連携してまいります。

2点目の1つ目につきましては、高校魅力化事業を海洋高校においても取り組んでおり、高校とも協議をしていく中で検討してまいります。

2つ目につきましては、体験入学型親子ワークショップとして、子供の受入れと併せ、糸魚川の自然を満喫いただいております、引き続き取り組んでまいります。

3つ目につきましては、他市の事例を参考に研究してまいります。

4番目の1点目の1つ目につきましては、風光明媚な姫川溪谷を走る大糸線には多くの観光資源があり、国やJRに対して価値を訴えていくためにも検証が必要であると認識いたしております。

2つ目につきましては、現段階では考えておりません。

3つ目につきましては、アニメだけではなく、利用促進につながる効果的な取組を検討してまいります。

2点目の1つ目につきましては、民間譲渡の可能性を検討しております。当面、日帰り温泉の営業は続けてまいりたいと考えております。

2つ目につきましては、国等の協議により、助成金等の返還が必要な場合も考えられます。

3つ目につきましては、地域住民の福祉向上のため、運営を続けたいと考えておりますが、日帰り温泉のみであれば、採算性は厳しいと考えております。

3点目の1つ目につきましては、様々な課題があることから、設置は難しいと考えております。

2つ目につきましては、老朽化による整備不調のため休止しておりますが、利用者のニーズを確認する中で検討してまいります。

3つ目につきましては、ドームなぎさは12月6日から利用できる予定であり、多目的広場入り口の階段整備は、来年3月末に完了予定であります。

4点目の1つ目につきましては、全職員対象に接客マナー研修を実施しており、各施設においても取り組んでおります。

2つ目につきましては、各施設において節電の取組は必要と考えておりますが、施設利用者に影

響を与えることのないよう配慮してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

すみません、番号をちょっと変えまして、大きい2番、子育てについてから質問させていただきます。

糸魚川市は、子育てに優しいまちを目指します。「ひとみかがやく 日本一の子どもをはぐくむために」と宣言されて、妊娠・出産支援と親子の健康増進、子育て支援の充実、子供と子育て支援に関わる連携の推進と宣言をされております。

私自身も、これまで産前産後ヘルパーの事業化を求め、実現していただいておりますが、まだまだ普及率や認知度が行き渡ってないような気もしております。サービス内容がよくても、利用者に情報が周知されていないことや利用するまでの手続きが複雑で時間がかかるものや、担当者が積極的かどうかによって、利用者の受け止め方も変わります。

そこで、産前産後ヘルパーを導入したように、今、全国で展開されている産後支援センターみたいなものの設立を検討すべきと思っております。ベビーファースト運動のアクションの1番目の妊娠・出産支援と親子の健康増進とあることから、今まさに早急に手だてを検討すべきと思いますが、先ほど伊藤議員の質問の中にもありましたが、この産後支援センターなるものについての検討状況等があれば、教えていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

産後支援センター、私もちょっと今日初めて聞くことで申し訳ございません。先ほど申し上げました産後ケアの中のデイサービス型、もしくはショートステイとか宿泊型ということでお答えさせていただきたいと思っておりますが、こちらのほうも現在ニーズ等をつかむ中で、また併せて事業者が実際にいるかどうかという部分も確認する中で事業の実施につきましては、検討してまいりたいというふうに考えておりますし、今ほど議員おっしゃいました様々な子育てに関する妊娠・出産の制度がございます。私ども、丁寧な説明を心がけておりますが、各種事業があるものですから、なかなか分かりにくい部分もあるかと思っておりますが、こちらにつきましては、必要な部分を適切に情報提供できるように引き続き努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

産後支援センターという表現を使いましたが、まさにショートステイとか宿泊型と一時預かりも含めるんですけど、そういう施設がほかの自治体では行っているの、そういう言葉を使わせていただきました。

自治体の規模や立地により運営方法も様々であります。ただ、目の前のお母さんの疲労や不安を軽減する目的で直接的に支援することがとても重要であるというふうに言われております。ベビーファースト運動に参画している以上は、市長も写真でホームページでも掲載されて、取り組むということで書かれておるんで、ぜひ産後ケアというものの重要性を私に教えてくださった助産師さんもおりますので、ぜひ市長に直接、何ていうのかなお母さんたちの産後鬱であるだとか、あと眠れなくなってしまうだとか、あと子供の様子によっても本当に千差万別な対応をされてるとか、あとまた、なかなか頼る人が周りにいなくて、でも自分でもうやるしかないという、そういう思い込みとかいろんなことがあるもので、子供の数が減ってるとかそういう問題じゃなくて、目の前の悩んでいるお母さんを救うという意味で、こういった施設が今非常に重要であるというふうに言われておりますので、ぜひ市長もそういうお母さんたちの声、また現場を見ている看護師さん、助産師さんの声というものをぜひ聞いていただくような機会を設けていただきたいと思うんですが、こういった取組はいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に私も、市長になる前にいろんな女性の皆様方との懇談をさせていただきました。これを続けていくつもりでいたわけではありますが、コロナ禍でそういったところが今途絶えとる部分がございます、今ご指摘いただいた点につきましても、また広くご意見を伺う中で、市としてどう対応していくかということもやはり捉えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

ちょっとせっちな性格なもので申し訳ないんですけど、現在の産後ケアで今糸魚川市にないサービスが、まさにさっき言われたショートステイ型のサービスがないということですね。つまり宿泊によってお母さんの休養時間を与えてあげることが今できない。お子さんを預かり、安心して寝ていただくことが非常に大事だというふうに言われております。これをできる施設の整備となると、非常にハード面でレベルが高くなってしまってなかなか難しいんですが、今市内の状況を見ますと、医療機関では今、糸魚川総合病院の産科の部分が今ちょっと見通しが分からないということで、場合によってはそういう施設も使えるのかなというのがそれが1点。

あと公共施設で考えれば、市営住宅であるだとか、温泉施設の部分利用であるだとか、以前もシェルターという話もしたこともありますが、そうではなくて、今回お母さんたちに休んでいただく空間、お風呂やシャワーが整備された場所でも有効利用ができるような、そういうところがあ

るんですけども、ちょっと気は早いかもしれませんが、やっぱり私はそういうのを目の前に困っているお母さんを救うということに関して言えば、もし代替案であっても試行的な案であっても、ちょっと取り入れてやってみるということが大事かと思うので、そういった公共施設を利用することをちょっと検討していただきたいんですが、そういった考えについて、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今まで試行的にという部分でのお話もありましたが、仮に本格的にという部分も含めまして、そういった施設を造るとなりますと、定められた設備の基準等があるのかどうか。また、人の配置等はどうなるのかという部分につきまして、改めて法令等の確認をした上で、実施に向けて検討してまいりたいというふうに考えておりますし、ご提案のありました公共施設の有効活用、またほかの空き施設の有効活用等につきましても、せっかく使える施設があるのであれば、そういったものの活用という部分も今回の事業を進める中では、有効でもあるというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

ぜひ検討を進めていただきたいと思います。

次に、（2）番の伴走型相談支援の充実を図ることについてでありますけども、国では、産前産後の保健師や助産師の訪問面談を行う日本版ネウボラをイメージしてと思いますが、糸魚川市でも、既に子育て世代包括支援センターを設置して対応されていることとっております。寝不足や育児による疲労による産後鬱等の積極的な対応、独り親や頼れる家族が近くにいない方などの育児の孤立など、多種多様な親子の支援サポートする体制づくりというのは、積極的に検討することがたくさんあると思うんですけども、実際にいろんなケースがあると思うんですけども、今そういう部分でのスタッフの充実度といいますか、足りてるものなのか、やっぱり関わり方によっては本当に付き添っていかないといけないような環境のお母さんもいるかと思うんですけど、そういったところでの人材の確保とか、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

様々な子育て支援に当たりましての相談役に、糸魚川市の中では保健師であったり助産師が、その役割を担っています。また妊産婦、また出産を控えたお母さん、またお父さんにとっての相談の内容というのは、やはり人それぞれ違うものでもありますし、その関わり方といったものも人それぞれ異なってくるものであるとっております。

それぞれの方々に寄り添った対応をするとともに、今お話のありました人員等の部分につきましては、今現在は充足してるというふうには捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

1つ飛ばして、（4）番の出産育児一時金の拡充であります。

今ほどは国に準じた金額でいくということなので、私、今回50万と言ったのは、やはり糸魚川総合病院の産科がなくなるということで、具体的にもうお金がこれまでよりかかるんだろうということで、確かにタクシー代と宿泊のことはあるんですけども、逆に言うと、それはもう恒久的な制度として受け止めてよろしいんでしょうか、タクシー代と宿泊費については。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

本定例会の補正予算で計上させていただきました妊産婦等の支援策につきましては、現在のところ継続していく予定であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

そうであるのであればいいんですけど、私、今回一時的なものかなと思ひまして、そうであるのであれば、もう47万にプラス3万して、糸魚川市は50万の一時金を払うんだということになれば、逆に市民のほうからすると分かりやすくいいかなと思ったし、またほかの自治体と比べてときに糸魚川市は3万円頑張ってるなというふうなことに受け止めていただけるかなと思ったんですが、じゃあ今のところは恒久型の支援ということで行くということで間違いありませんか。再度確認をお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

今、緊急措置的に3月分という形で取り組ませていただいています。それで、新年度については、今のような個別支援の形態か、あるいは全体を包括した中で支援できるか、そういったものも含めて今検討しておりますが、制度としては継続をしていきたいというふう考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕



○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

次に、5番目の子ども医療費の無料化についてであります。

子供の出生数が減少している現状の中で、せめて糸魚川市の子供たちについては医療費に不安を取り除くと。もう糸魚川市は、医療費に関しては不安を取り除くということと、あと糸魚川市が子育てに力を入れているんだということを宣伝するといったらおかしいですけども、所管は違いますが、企画定住課の人口の対応という部分でも糸魚川市の独自路線として医療費無料化。東京都とかはやってるんです、大きい財政力のあるところは。でも財政力が乏しくても子供を絶対守っていくんだと。保護者には、医療費については心配かけないんだと。これはしっかり守っていきますよというのは、多分コロナ禍の状況の中で、医療機関も非常に厳しい中で医療行為をしていただいている。今、物価高で、ウクライナの侵略戦争とか、いろんな世界経済が今逼迫して、物価高のひどい中で、このタイミングでやっぱり医療費に安心感を与えるというのは、非常に私大事だと思うんですね。幸か不幸か、子供の人数も出生数を聞けば、減少していることを鑑みて、やはり新年度からはやっぱり頑張って530円のところを、申し訳ないけれども行政はちょっと頑張ってもらって、やっぱり新年度から無料化というところに私はかじを切っていただきたいと思うんですね。

この間、総務文教常任委員会で福井県のあわら市に行きまして、そこも無料化導入をされたというふうに伺いました。2年目、3年目、予算にすごく影響を与えたかというふうに聞きましたら、1年目は確かに増えたそうです。無料化にすることによって、利用者が増えた。でも2年目以降は、さほどでもありませんでしたということとあります。皆さんも、もう賢いんで、何か無料になったからどんどん使おうなんて人、今いないと思います。

そういったことも鑑みて、やはり今、新年度のタイミングでぜひこの医療費の無料化というものをぜひやってもらいたいと思うんですけども、その辺の考え、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

先ほどのお答えでも、前向きに捉えていくとお答えいたしましたが、新年度から捉えていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

今、市長さらっと言っていたんで、非常に私はすごい今英断を言われたんだなと思いました。

実は、私、子ども医療費助成については、実は議員になる前に旧糸魚川市で制度拡充で署名運動をさせていただいて、5,030名の方から署名を得て、当時の市長に提出した経過がございまし

て、それで今も毎年、市長にお願いして、予算要望等をさせていただいておるんですけども、その中にずっと子どもの医療費の助成については、拡充を求めてきたんですね。でもやっぱり今、市長、本当に前向きな回答をいただいたのでほっとしてるんですけども、やっぱり今このタイミングで糸魚川市は医療費は大丈夫なんだと。ぜひ逆に宣伝もしていただきたいと思います。やっぱり糸魚川に来て、安心なんだということも言っていただきたいと思いますので、ぜひ新年度から無料化になると信じていいですよ。疑い深いもんですから、ぜひ実施していただきたいですけど、再度ちょっと確認のためによろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

信じてもらえなかったのかなと思ってるんですが、やはり少子化という形の中で、お子様が安心して育てていける環境が大事かということになってきますと、保護者の皆様方に安心感を持ってもらうことが大事じゃないかな。糸魚川で子供が病気になっても育てていけるんだという形を行政からも整えていきたいと思っております。医療関係も非常に厳しい、危ういところが見えておるわけでごさいます、やはり人口減少に伴いまして医療経営というのは非常に厳しい状況にありますし、また、開業医の皆様方におかれましては高齢化が進んでおるとい形が今あるわけでありまして、保護者の皆様方の不安を払拭するためにもそういった行政の支援が大事だろうと思うわけでごさいますので、新年度に対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

大変力強いご答弁をいただきまして、本当にありがとうございます。期待しておりますので、よろしくお願いたします。

続きまして、ちょっと申し訳ないんですが、4番の（3）番でアフターコロナのスポーツやレジャーの振興についてをちょっと取り上げさせてください。

陸上競技場のことでございます。陸上競技場は、言葉どおり陸上競技をはじめ消防団の規律訓練やポンプ操法の大会会場となることから、家族等の関係者に見ていただきたいことと、様々な大会、イベントを誘致する上でも、ちょうど管理棟の上のところは何もない状態であるんですけど、強度は何かあるそうなんです、やっぱりそこに上がる階段と、あと人が落ちないようにフェンスを張ってもらって、関係者に聞くと、そんなにがちがちのベンチを作ってくれという話ではないそう、私は作ってほしかったんですけども、でも人が落ちないフェンスだけあれば、そこから走っている人の動画を撮れたりとか、あと小さなお子さんが、上から走る姿を見ることによって、非常に走る臨場感が伝わったりとか、平面で見ても、視線が水平ですと全然迫力が伝わらないもんですから、やはり高いところから見ていただく。ちょうどゴール前になりますので、そういったところをぜひやってもらいたい。

何で今回、質問に取り上げたかというのは、今年に限っては、実は伝統ある新潟県駅伝大会がございまして、私も高校時代、2回ほど参加させてもらった縁もありまして、今回、糸魚川チームが市民ランナーの集まりで悲願の初優勝ということで、このことも、個人的で申し訳ないんですけど、顕彰してあげてほしいなど。その記念事業という形で、陸上競技場の屋上のところにそういう観覧席というのを初優勝したということで設置しましたという、市民ランナーがここまでやってくれたというところを顕彰してもらいたいんですよ。ちょっと財源どうするんだと言われると全然用意はしてないんですけども、ぜひ初優勝したというところでちょっとご検討いただきたいと思うんですが、その辺考えいかなるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えいたします。

おっしゃったとおり、今年、駅伝チーム初優勝ということで、大変めでたいことだなというふうに感じております。おっしゃったとおり、そういう要望については、多少お聞きはしております。

ただ、おっしゃったとおり財源の問題も当然ありますが、荷重についてはおっしゃったように大丈夫かなというふうに思っておるんですが、あそこ屋根でございまして、防水等とかそういう問題もありまして、今の段階では、ご存知のとおりグラウンドの周りの芝生のところ、1段高くなっておりますので、そこでご覧いただきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

実際行って、芝生のところからゴール見ていただきたいなと思いますね。全く見えません。だから今回こうやって声を上げてるわけで、本当にそこに参加している、それはお父さん、お母さんが選手で出る場合もあるでしょうし、逆に今度、お子さんが選手として出る場合もあるんですけども、やっぱり頑張った成果を発表する場所であります。だから、市民会館とかと一緒にすよ。いろんな発表会があるのと一緒にすよ。もっと言えば、そういう施設整備ができることによって、ほかのイベントも誘致できる。そういう考え方もやっぱり持ってほしいんですよ。今日ここで頑張っても、なかなかいい回答をもらえそうもないんですけど、少なくとも県の駅伝で優勝したそういう市民ランナーたちのことも、これまで本当に勝てなかったんですよ、本当に壁が厚くて。だけど、こつこつやって、そうやって頑張ってる人たちを顕彰するというのも、私は糸魚川のいい精神にしてほしいなど。糸魚川市民、今すぐくて、いろんな分野で全国大会に出たりだとか、スポーツばかりじゃないですけど、ほかのことでいろんなところで賞を取っていただいて、本当にいろんな、盛り上げていただいているなと思いますので、少なくともそういったことは一つ一つ顕彰してあげてほしいと思うんですね。

ちょっと質問のあれが変わりますけども、そういう顕彰していくという精神については、いかなるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苅生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苅 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苅 真君）

お答えいたします。

スポーツ協会ですとか市のほうでも、そのように優秀な成績を収められた方については、その都度いろんな形で顕彰させていただいてはおりますが、少し大きなこと、ほかで言うと例えば相撲であれば、今年国体の5連覇ですとかということもございましたので、スポーツ協会と一緒になりまして、また新たな顕彰の方法というものを検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

絶対来年も勝っていただいて、またここで同じ質問をしたいなと思いますけども、よろしく願いいたします。

次、②番、藤崎海岸にあるトイレの整備であります。

これ単独で現場も見てきたんですけども、何か今年はサーフィン大会があつたりだとかして、非常に波のでき方がいいらしいんですね。駐車場のほうは、道路を挟んで反対側、山側のほうに整備していただいているんですけども、トイレがやっぱり非常によくはないということで、これもぜひ糸魚川の海岸で楽しんでもらうということで、いろんな、糸魚川にどんどん人が来るという意味でも、こういうトイレ整備が私、大事だと思うんですね。

また、運営についてもそういったサーフィン仲間だとか地域の方と連携して、ちゃんとした扱いのルールとかもつくっていただいて、きれいに使っていただくようなことも、こっちから要求したらいいと思うんですよ。だから、そういったところでトイレ整備、ぜひちょっと進めていただきたいんですけど、その辺の考え方、改めていかなるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎能生事務所次長。〔能生事務所次長 長崎英昭君登壇〕

○能生事務所次長（長崎英昭君）

お答えいたします。

藤崎海岸の海水浴場用の設置したものであると思うんですけども、現場を見てきたんですけども非常に老朽化が進んでまして、近年サーフィンとか釣りを楽しむ方も多く訪れてるという状況も確認しておりますので、利用者のニーズを把握しまして、修繕で使用可能であれば対応のほうをしていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

ぜひよろしく申し上げます。そのときに、改修入る前にサーフィンする方だとか、また地域の方々の声を聴きながら、本当に使い勝手のいいような整備をしていただければいいかなと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

それでは、1番目の駅北子育て支援施設の目的と市民周知について、質問させていただきます。

1番項目目として、市民会議とまちづくり会議で決めたにぎわいの拠点施設ということで、ちょっと大きく捉えて質問しますが、前回の9月定例会の一般質問と、あと建設産業常任委員会の、これまでの駅北子育て支援施設の調査について、私個人としてすごく気になってることがございます。それは子育て支援施設の設置について、駅北復興まちづくりの中の計画であるということが、ちょっとなおざりになっているのではないかなという気がしております。

子育て支援施設は、駅北大火後のにぎわいの復興事業であることをやっぱりきちんと伝えた上で話合い、議論でなきゃならんと思ってるんですね。それをちょっと改めて行政に確認したいんですが、糸魚川市の総合計画に子育て支援機能施設整備計画があったわけではなく、あくまでも駅北の復興のためにつくられた市民会議とまちづくり会議の議論の中で、会議の総意として、まちづくり戦略として市長に答申をしたと。これは間違いはないですよ。そこをちょっと確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおりでございまして、まちづくり市民会議ですとか、その後に行きましたまちづくり会議を経まして、総合戦略というものをつくってまいりました。そこの中のにぎわいのあるまちの実現というところのために、今回の子育て機能を中心とした施設が位置づけられておるといふうに言っておるところですけど、その辺がぼやけてしまったとしたら、そこはこれからもちやんと行っていかなきゃいけないことだというふうに認識いたします。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

本当ににぎわいの拠点については、例えば地域の利便性の向上を図るとか、あと何ていうかな、そういうことではなくて、あくまでも市民全体にとって必要な施設というふうに私は捉えておるんですね。あと駅北エリア外にもし造るとかいう意見があるとすれば、それは本末転倒の話というふうに受け止めているんですね。あくまでも駅北のにぎわいのための計画であって、駅北以外のところで造るとなると、これ全く別の計画の話になってしまうので、そういったところが何かきちっと伝わってないんじゃないかなと。

また、子供が少子化しているから、無駄な施設じゃないかというご意見もあるんですけども、さっきも言ったとおり、子育てというのは少ないとか多いの問題じゃないんです。子育てしている親

子関係の中でいろんな問題があったりとか、家庭の事情があったりだとか、あと健康上の問題があったりだとか、あと経済的な問題であったりだとか、あとさっき言った鬱みたいな精神的な問題であったりだとか、そういう人たちの相談の場になり、もっと言えば子供を専門家に預けて遊んでもらって、自分が相談できたり休めたりするという、非常に大事な施設なんですね。それを単なる費用対効果で物を語ってもらいとちょっと困る施設なんですよ。それぐらい重要な施設であると思うんですよ。

だから、そういった部分での、これまでの積上げてきた市民会議とか、あとまちづくり会議というふうに私は受け止めているんですよ。その辺ちょっと周知の徹底が足りないんじゃないかと思うんですが、その辺いかがですか。

〔「費用対効果は大事だぞ、打ち出の小づちでもあるのか」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

静粛にお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

建設産業常任委員会の中でも発言をした記憶があるんですが、糸魚川に子育て支援施設をどこかに造らなきゃいけないというスタートであれば、恐らくあそこという発想は、自然であれば出てこないでしょう。当然、子育ての大切さと駅北の復興に、そこに人に集まってもらうという、そういう部分が、重なっている部分が施設なんですという言い方を私どもはしてきたつもりでございましたけど、やはり子育ての部分だけ特化したり、機能の部分に、あと私たちは子育ても要ると思っ  
てますけど、皆さんはほかにどういう機能が欲しいでしょうかというような、ちょっとぼやかして  
しまうような進め方をしてきたというのも正直なところです。当然、市長のほうからは、子育てを  
中心とした機能とにぎわいにも資する、高齢者の方も寄っていただけるようなそういう複合的な施  
設を目指なさいという指導があったんですけど、そこはシンプルに意見交換をしてしまった中で、  
重ね過ぎて、かえってぼやけてしまったところだと思いますので、9月議会の東野議員からのご指  
摘にもありましたように、そこにつきましては、今後、市民の方に説明するときにも、難しい話か  
もしれませんが、丁寧にちゃんと説明して、必要性というのを訴えていこうというふうに思ってお  
ります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

議員の意見は意見として、全然いいんです。18人の議員がいれば、議員それぞれ、私も含めて一議員の意見なんです。私が心配しているのは、市民会議とかまちづくり会議で決めてきた経過があるということなんです。それをもしなおざりにして話をいろいろ議論するんであれば、それは市

民会議の方たちとか、まちづくり会議の方たちに大変失礼なことになってしまう。場合によっては、全否定の意見を言ってることになってしまう。その認識が、今回、市民周知という言葉を使いませしたけども、その辺の認識が正しく行政努力で伝わってないんであれば、ここはもうちょっと周知を図らんきゃいけないんじゃないかということでもあります。その辺、何か対応とか考えてますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今のご質問・ご提言は、非常に重たく受け止めさせていただきます。この先、基本計画の素案をつくって、また市民の皆様の説明するときには、多少時間は確保させていただいて、もしかしたら難しい言葉も入っちゃうかもしれないですけど、その辺というのも丁寧に市民会議、まちづくり会議からの流れというところを振り返って、ちゃんと説明していきたいと思います。基本計画の中にも、その辺りはしっかりと書き込んで、それを見た方が分かっていたりするような計画づくりをしてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

先ほども言ったとおり、議員の意見は尊重します。私自身もそうしないと、自分の担保取れませるので。

先輩議員である古畑議員がよく使う言葉を借りれば、行政の継続性という言葉がございます。これは市長が改選期を迎えたり議員が改選期を迎えたりしても、行政が持つてる計画というのは、基本的にはそのまま進みます。でも何か背景であるだとか、事件があったとか、よっぽどのがあって、市民の反対運動とか、市民の署名運動であるだとか、そういったいろんな根拠があって、当初のあった計画が、もう一回白紙撤回してゼロから考えようとかというんであれば、私、それはそれだと思う。

ただ、今回のこのケースを見ていると、私の中では市民運動だとか市民の活動とか全然見えてこないし、私の周りにはそういう声も聞こえてきてないんですね。だから、もしそういうんであれば、認識の違いから、今の議論がおかしくなっているんじゃないかなという心配から、今回あえて、この質問を取らせていただきました。だから、もしたがが、たがとかボタンの掛け違いみたいなもので議論が進まないんであれば、やっぱり原点に戻って、なぜこういう結論になっているのか、なぜ必要なかもきちんとおさらいをしてもらって、その上で住民から反対運動があれば、それは仕方ないと思います。

1つ気をつけてほしいのは、駅北に造る前提で予算、財源確保だとか土地だとか、あとその計画があったから旧東北電力の社屋が安価な形で譲り受けたとか、いろいろあったと思うんですね。

ただ、地域にとっては、スーパーの撤退とかもいろいろあって、条件も変わってきてるのも事実

です。ただ、あくまでもにぎわいの拠点として造って、そこで回遊させるための一拠点という考え方は変わらないと思うので、もしそこで造らないという、もし議論になるのであれば、今度、駅北エリアでの土地だとか財源の確保だとかということは、全く別の今度話になってしまいますので、そうなったときの駅北の拠点づくりをどうするのかと、また新たな議論をしなきゃいけなくなってしまう。

心配してるのは、そもそもの復興計画のスケジューリングから言って、今どうなのかということと、本当のにぎわいの定義というのを、やっぱりこれまで曖昧にしてきたのがちょっと誤解させる部分もあるかと思うので、そういったところもきちんと説明せんきゃいけないと思いますし、特に議会においては、本当初歩的な、特に議会においては前回の前半期の特別委員会、後半の特別委員会、全部会議も傍聴してきたり報告も受けて、承認してきた経過もございます。そういったことをたまたま改選後の議員が10人新しく入ってこられたとか、いろんなそういった状況もあるのかもしれない。

ただ、もう一度、経過というものを正しく捉えた中での議論というのをぜひ、けんけんがくがくとやればよいと思いますので、あとタイムリミットも、場合によっては市民の理解を得られれば、多少伸ばしてもいいかもしれません。今のちょっと検討の仕方が、少し復興計画からどうも子育て支援機能施設のみの議論になっているようなところがあって、私としてはちょっと、ずっと見てきた人間としてはおかしいなと思っているので、ぜひちょっと軌道修正というか、整理をしていただきたいと思うんですが、その辺いかなうものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、分かりやすいほうの財源的な問題から来る期限というのも当然、私どもは行政ですので意識をしなきゃいけない項目ですし、もう一つは、今回、公民連携の手法を取り入れたいということで、なかなか経験が乏しい行政でございますので、その辺の見極めというのをしっかりしなきゃいけない。そうして考えますと、時間というのは幾らあっても足りないことになりまして、その辺で早く機能の中身を色づけて、しっかり決めたいとかそういう焦りもあったのかもしれないですが、新しい議員の方にその辺りがもし伝わっていないとすれば、どういう機会というのが、またただけるか分からないですが、そこをしっかりと丁寧に説明していかなきゃいけないですし、市民の方には素案の説明のときには、先ほどの繰り返しになりますが、少し長くなったとしても丁寧に説明をさせていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

ぜひお願いします。今、タブレットもありますし、資料の配付等をやったりしてもらってもいい



と思いますし、また、今建設産業常任委員会だとか総務文教常任委員会が所管になってるんで、そういうところでも、また丁寧な説明をしていけばいいかなと思います。

ちょっと時間がないんですけども、あと、この駅北のエリアの中の回遊性を図るということになると、やっぱり立ち寄る目的が必要になります。今、素人考えで恐縮なんですけども、中高生をターゲットにするのであれば、今学習、読書、おしゃべりができる、軽食が取れる空間なんていうのが何か人気だそうなんですけども、場合によっては、高校生による、高校のためのカフェみたいなものがあるといいのかなと。また、子育て世代をターゲットにするのであれば、子供の成長に関わる相談所だとか、知育グッズの紹介だとか、あとバギーやチャイルドの交換、古着だとかの交換所みたいなものにぎわいをつくっていくだとか、あと最近の言葉で毒親というのがあるんですけども、子供のために一生懸命やるがために毒親になってるケースが多いというふうに聞きます。そういったところの危険信号を何かレクチャーする場面であるだとか、あと中心市街地から博士を輩出しようみたいな形で、理数科の実験だとかそういった楽しく科学を学んでいくだとか、あと相馬御風さんがおられるので文学者だとか音楽だとか、そういう楽しませる教室というところがおこがましいんですけども、そういった、高齢者の方から協力もあって、そういうものやるとか、何か目的をつくらないと、幾ら回遊性回遊性といっても人が回らないので、ぜひそういったところもこの機会に考えていただきたいんですけども、そういった考えとか検討とかってあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

いろいろご提案をいただきましたが、私どもの復興まちづくり戦略にうたっておる考え方も分散型という考え方で、1つのところで全て完結するのではなくて、わざと点在させるということではないんですが、いろんな活動ができる場所を設けたり、そこに対して行政がアシストすることで、全体としてまちににぎわっていき、そういう活動をする人、目的を持った人が来ないと、にぎわいが生まれませんよという市民会議の定義づけを受けて、今進めておるんですが、じゃあジオパルの待合室のところで高校生が勉強する姿とか、ギターレで勉強する姿とか、そういう今までにない動きというのは、僅かですが生まれていると思います。

ただ、それがまだ点であって、線や面にはちょっと遠いというところはありますので、それを自然発生的に待つのではなくて、民間の方、商店街の方と、あと地元の方ともそういう役割分担みたいなものを明確にしながら、行政としてできること、あと今やっている仕事をもうちょっとスピード感出してやることというところが、今後必要なんだなというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

なかなかそういった議論をする場も、私もまだ総務文教常任委員会にいるんですが、そういう議

論もまだできてないんですけども、そういう機会があれば、またそういう回遊性についても本当に議論したいなと思ってますので、またそういう機会があればよろしく願いいたします。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。

再開を35分といたします。

〈午後3時23分 休憩〉

〈午後3時35分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、利根川 正議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。〔1番 利根川 正君登壇〕

○1番（利根川 正君）

みらい創造クラブ、利根川 正です。

1回目の質問をお願いします。

1、大糸線の存続について。

鉄道が開業して150年、また、糸魚川市においては大糸線全線開通65周年を迎えた年に、JR西日本は大糸線の存続について検討すると報道がありました。

中山間地では、鉄道は地域住民の日常生活を支える重要なものであり、産業、観光、関係人口を増やすなど、地方にとって必要不可欠な路線であります。

今回、コロナ禍の影響で、首都圏の路線の黒字で地方の路線の赤字を穴埋めする内部補助が限界に来ているため、存続、廃止を含めた議論が始まったと考えますが、今まで沿線自治体は、鉄道経営に関して実情を知らないできました。そして今回の発表となり、赤字額の大きさに驚きました。

ここで大糸線の路線の連続性が損なわれると、えちごトキめき鉄道に大きな影響が出ます。鉄道がつながっていることで利用者も多くなり、大糸線の問題だけではなく、白馬駅、南小谷駅も同じように考えなくてはなりません。また、廃止になった場合、復活できなくなり、地域交通のバスにしても、第三セクター方式、公有民営化（上下分離）方式にしても多額の補助金が必要になり、国からの十分な財政支援の確保が必要になってきます。

今回、国の関与で地方鉄道再構築協議会を設置して3年以内に対策を決めるとされ、大糸線も該当しているため沿線自治体と多くの協議の場を持ち、考えを一致させていかなければなりません。大糸線の存続を望みますし、廃線は地域の衰退につながります。これらを踏まえ、以下の項目について伺います。